

令和5年度第2回石狩市男女共同参画推進委員会 議事録

日時 令和6年2月7日(水) 18時00分～19時40分

場所 石狩市役所 5階全員協議会議室

議事次第

◇開会

◇委員長挨拶

◇議事

<報告事項>

1 令和5年度男女共同参画意識に関するアンケート結果について

<協議事項>

1 男女共同参画の視点からの避難所運営の取組について

◇その他

事務局より事務連絡

◇閉会

出席者 委員7人 事務局4人 傍聴者 1人

委員			職員(事務局)			
役職	氏名	出欠	所属	役職	氏名	出欠
委員長	木脇 奈智子	○	環境市民部 広聴・市民生活課	課長	富木 則善	○
副委員長	菅原 亜都子	×		主査	木本 明美	○
委員	田中 亮	○		主任	泉 亮子	○
	船橋 真衣	×		主事	有好 一晟	○
	相田 珠美	×				
	荒川 よし子	○				
	伊藤 美由紀	○				
	丸山 美沙子	×				
	獅子内 彰	○				
	相澤 奈保子	×				
	鷲見 光	○				
	椿 晃	○				

◇開会

【事務局（富木課長）】

皆さんこんばんは。定刻前ではございますが、委員の皆さまお揃いですので、只今から「令和 5 年度第 2 回石狩市男女共同参画推進委員会」を開催いたします。事前に菅原委員、相澤委員から欠席の報告を受けておりました、本日、相田委員、船橋委員、丸山委員から体調不良などにより欠席するという連絡を頂いております。今日資料は、一部差し換えがございます。次第を差し替えさせて頂いたのと、資料追加ということで、資料 2「修正版男女共同参画の視点からの避難所運営の取組について（案）」ということで、本日配布させて頂いております。本日の予定ですが、男女共同参画意識に関するアンケートの結果についての報告と、協議事項として男女共同参画の視点からの避難所運営の取組みについてということで進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

◇委員長挨拶

【事務局（富木課長）】

それでは、木脇委員長よりご挨拶の後、議事の進行をお願いします。

【木脇委員長】

木脇でございます。本日は皆さんお疲れ様でございます。菅原副委員長を始め、欠席の方が多いのですが、少数精鋭でご協力頂きながら進めていきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。少し短めにすることができのかなと思っております。

◇議事

<報告事項>

1 令和 5 年度男女共同参画意識に関するアンケート結果について

【木脇委員長】

では、議事の報告事項に移ります。昨年実施して頂いた男女共同参画のアンケート結果についてのご報告です。令和 5 年度男女共同参画意識に関するアンケート結果についてのご報告を受けます。では事務局から説明をお願いします。

【事務局（木本主査）】

広聴・市民生活課の木本です。私のほうから座ったままご説明をさせていただきます。

資料は【資料 1 令和 5 年度男女共同参画意識に関するアンケート結果について】になります。

まず概要ですが、アンケートの目的は、第 5 次石狩市男女共同参画計画の進捗状況および男女共同参画に関する市民意識を把握し、本市の男女共同参画推進事業に活用していくため毎年行っているものです。

対象は、市内居住の 20 歳以上の男女 1,000 人を地域別・年代別で無作為抽出しています。

期間は昨年 8/31 から 9/21 まででした。

次に回収状況ですが、回収件数は 184 件で回収率は 18.4%、前年度調査から 35 件 3.5% の減少となっています。性別ごとの回収率は、男性は 12.4%。女性 24.0%。性的マイノリティの方に配慮し、性別の記入を回答の必須項目としませんでした但未記入の方は 2 件でした。

2 ページに移りまして、2 の年齢別の回収率は、⑤60 歳以上が 25.0%と一番高く、次が③40～49 歳の 22.0%、その次が④の 50～59 歳の 21.5%と、年齢が高い人からの回収率が高い一方で、①20～29 歳が 10%を下回っています。

3 の地域別の回収率は、③花川東・緑苑台が 25.7%、⑥その他の地域が 23.3%となっているほかは、20%以下の回収率となっています。

3 ページに移りまして、回答方法は、184 件中、色の濃いほうの郵便での回答が 142 件、色の薄いほうの WEB での回答が 42 件となっております。概ね毎年 40 件程度で推移しており、全ての年代層の方で WEB を利用して回答されている方がおられます。

この後、グラフの下の所に、グラフの色の濃淡が何を示しているかを表示しておりますのでご参照ください。

4 ページからは、各設問の分析結果となります。

問 1 は、「男女共同参画社会」という言葉の認識割合になります。左側の色の濃いグラフが令和 4 年度、右側の色の薄いグラフが令和 5 年度を示しています。

「男女共同参画社会」という言葉を見たり聞いたりしたことが「ある」と回答した人の割合は、約 60%の人が見たり聞いたりしたことが「ある」と回答しており、「男女共同参画社会」という用語の周知度は前年度調査を上回っています。

下のグラフで男女年代別の傾向を見ますと、濃いグラフの男性は 20～29 歳と 60 歳以上が 70%以上と高く、その他の年代でも 50%以上の人認識しています。女性は 20～29 歳が 80%以上と高い一方、50～59 歳が 42.3%と低くなっています。

5 ページは、男女それぞれの「ある」と回答した割合の年代別のグラフとなります。

まず男性は、全ての年代で前年度調査を上回っています。特に 20～29 歳と 60 歳以上は 75%以上の人認識しています。

つぎに女性は、20～29 歳と 60 歳以上は前年度調査を上回っていますが、それ以外の年代は前年度調査を下回っています。

このことから、30 代 40 代の世代は子育て世代でもありますので、これまでの児童生徒へのリーフレット配布などにより子どもと一緒に考えてもらう取り組みや学校と連携した取り組みなどを継続することが必要と考えます。

6 ページは、問 2 の「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」という言葉の認識割合になります。

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を見たり聞いたりしたことが「ある」と回答した方の割合は、その他及び未記入以外全体的に横ばいとなりました。

また、昨年度もそうでしたが、男性の認識している割合は、女性の認識している割合よりも高いことが見受けられます。

下のグラフに移り、男女年代別の割合は、男性は全ての年代で 60%以上の人認識して

おり、20～29 歳、30～39 歳、60 歳以上は 70%以上と高くなっています。女性は 50～59 歳と 60 歳以上は 40%以下（R4 は 50%以下）と低い一方、20～29 歳と 40～49 歳は 60%以上と高くなっています。

7 ページは、男女それぞれの「ある」と回答した割合の年代別のグラフとなります。

まず男性は、全ての年代で 60%以上となっています。

次に下のグラフの女性ですが、20～29 歳と 50～59 歳を除いて、前年度に比べて低くなっています。このことから、引き続きパネル展などでのロールモデルの周知啓発などを今後も継続実施してまいります。

8 ページから 9 ページは、問 4 の「LGBT」という言葉の意味の理解度になります。

「LGBT」という言葉の意味を「理解している」と回答した方の割合は、昨年度より約 10%増えて約 80%の人が「理解している」と回答しています。また、昨年度同様、女性の理解している割合が男性の理解している割合よりも高くなっています。

次に下のグラフの男女年代別の割合は、昨年、一昨年と同様に、男性女性どちらも全ての年代で 50%以上の人が理解しており、特に 20～29 歳と 40～49 歳、50～59 歳は 80%以上の人が理解しています。

男性は 20～29 歳と 40～49 歳が 100%、女性は 40～49 歳が 93.5%と非常に高く、男性 50～59 歳、女性 20～29 歳と 30～39 歳、50～59 歳も 80%以上と高くなっています。

9 ページに移り男性は、30～39 歳と 60 歳以上以外は前年度を上回っています。次に下のグラフの女性は、50～59 歳と 60 歳以上で前年度を上回っており、それ以外は横ばいとなっています。

10 ページから 12 ページは、問 5 の「DVにあたる行為」の認識割合になります。

全ての項目で半数以上の人が「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答しています。V～VI、Ⅷの精神的な暴力について認識している割合が低くなっています。全体的に前年度と比べて横ばいとなっています。

11 ページから 12 ページの項目別に見ていくと、男女間の認識の差については、「Ⅲ ながるふりをして、おどす」「VI 交友関係や電話を細かく監視する」という行為が「どんな場合でも暴力にあたると思う」と認識する女性の割合がそれぞれ 15.4%、16.5%男性より高い結果となっています。

また、「V 何を言っても長期間無視し続ける」「VI 交友関係や電話を細かく監視する」「Ⅷ 大声でどなる」という精神的な行為は「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」と認識している割合が男女ともに約 25%以上と高くなっています。

これに関連して、11/12 から 11/25 までの女性に対する暴力をなくす運動期間に合わせて例年行っているパネル展を 13 日（月）～24 日（金）に市役所ロビーで行ったほか、この期間に合わせて、24 日（金）に女性相談を行いました。

さらに令和 3 年度より始めた、市役所ロビーにて、パープルリボンプロジェクトとしてパープルライトとパープルリボンの掲示と配布を引き続き行った他、令和 5 年度新規採用の市職員にパープルリボンを配布し運動趣旨の周知及び期間中の着用を促したほか、女性相談を行いました。

若年層への啓発という部分では、引き続き小学校 5～6 年生と中学生にリーフレットを配

布したほか、こども未来館あいぼーと、藤女子大学と連携して若年層向けのデート DV のポスター周知啓発をしました。

その他、広報いしかり 11 月号、市 HP、町内会回覧、あい・ボード、市役所館内放送、市役所 1 階広報ディスプレイと大型電光掲示板、防災協力自販機電光掲示板、市内各所でのポスター掲示を行っております。

これらの取り組みを行うことでたくさんの人の目に触れるよう事業展開してまいります。最後に自由記載です。

まず、13 ページから 16 ページまでは、問 3 のワーク・ライフ・バランスを実現するために、心掛けていることや、実践したらよいと思うものの自由記述のご意見となっています。男性からは 20 件、女性からは 61 件、全体で 81 件のご意見をお寄せ頂いています。アンケート回収数が 184 件でしたので、44%と多くの方がご意見を寄せてくださいました。

傾向としましては、なかなかつかめないところがあるのですが、20 代は男女ともに、休日はしっかり休むなど自身の時間の使い方について言及されている方がいらっしゃいました。

30 代は、英語でご意見を寄せて頂いた方がいらっしゃいました。また、男女ともに家に仕事を持ち込まないという意見が複数見られました。

40 代になりますと、女性からは男性も家事を手伝う日常になってほしいなど、男性への家事育児などへの協力を望む声が多くみられましたが、男性からは、有給休暇を強制的に取らせるように会社が設定するなどの他律的な考えが寄せられました。

50 代女性からは、女性ばかりに負担がありすぎる、いつの時も女は不利といった意見が寄せられた一方、男性からは仕事のことについての意見が寄せられました。

60 代になりますと、心にゆとりを持つことや、家庭・仕事・町内会活動のバランスをとって行うことや、男と女、妻と夫という従来からの役割にとらわれず、誰もが家事ができるように訓練するなどのご意見がありました。

最後に、17 ページから 22 ページまでは、問 6 の男女平等など、男女共同参画についての考えや意見についての自由記述のご意見となっています。

男性からは、昨年度より 4 件増えて 29 件、女性からは、昨年度より 2 件増えて 52 件、全体で 81 件のご意見をお寄せ頂いています。アンケート回収数が 184 件でしたので、44%で昨年度より約 7%多くご意見を寄せてくださいました。

20 代では女性の方から長文のご意見を頂きました。日本や韓国などでは男女の対立が深まり、男女の相互理解や歩み寄りを促進する施策に期待するという意見が寄せられ、男性からは男性の育児休暇推進といったご意見が寄せられました。

30 代女性からは、英語でご意見を寄せて頂いた方がいらっしゃったほか、身体の仕組みの違いから仕方ないとか、女性は全て不利だと思うという意見が複数寄せられました。一方、男性からは、男性の人権などを守る機会が少ないのはおかしい、現在女性の方が色々優遇されていると思うという真逆の意見が寄せられました。

40 代になりますと、子どもを持つ方が多い世代であるため、女性からは、女が家事をやって当たり前、男が養って当たり前という考えを捨てなければ共同参画は成り立たない

ですとか、夫も育児は女がするものと思っていて、不満はあるが夫に頼っても無駄という諦めているご意見が複数寄せられています。

男性からは、男性と女性がお互いに認め合い、尊重する気持ちが大切というご意見が複数寄せられました。

50代女性からは、身体の違いがあることから、男女平等などにこだわりすぎると、どちらにも不利益が生じるといった意見や、男性からは LGBT に対しての意見が寄せられていました。

60代女性からは、社会の仕組みや個々の役割分担意識を変える必要があるとか、男女共同という言葉が出てから何十年も過ぎているが変わっていないというご意見、また、ご友人に LGBTの方がいてご友人を尊重しているというご意見などのほか、男性からは人間としての価値を性別にとらわれず正しく評価すべき、年齢に関係なく平等に接したいというご意見が複数寄せられました。

この結果につきましては、本日の推進委員会への報告の後、市ホームページでも掲載予定です。私からは以上です。

#### 【木脇委員長】

ありがとうございました。それでは、皆さまからとの協議に入りたいと思うのですが、ご発言を頂く前にお願いがございます。議事録作成のために録音をしていますので、私に指名されてからご発言頂きたいと思えます。なるべく大きな声で発言をお願いいたします。それでは、ご質問などがありましたらお受けいたします。どうぞお願いいたします。

全体的な感想なのですけれども、18.4%という回収率は、あまり伸びていないなということの一方で、自由記述にこれだけ書き込みがあるということは、揺れ動く石狩市のジェンダーの様子を表しているのかなと思えますが、若い人たちに少ないのですけれども、これを解消できないかなと思うと、若い方たちは少ないけれど半数は WEB で回答をしていることを考えると、そちらに力を入れることはできるのかなというふうに思いました。伊藤さん、いかがですか。

#### 【伊藤委員】

自由記載がたくさん意見が出てきたなという感想でした。この数字をパーセンテージで表すとちょっと無理があるのかなと個人的には思っています。男女共同参画という言葉は、本当に何十年も前にすごく叫ばれていた言葉なのですけど、最近やはり LGBT という言葉が頻繁で、男女ってということよりも、全体がそれぞれ人らしく、それぞれ違う考えを持ちという言葉の方が多いので男女共同参画という言葉だけでもちょっと引いてしまうというか 問題意識もないのかなと。以上です。

#### 【木脇委員長】

ありがとうございます。引いてしまいますかね。男女共同参画って楽しくなさそうなイメージ。男女だからですか。

【伊藤委員】

結構ドラマでも男女ではなくてそれぞれの生き方でというようなのが多いので、もう生き方がだいぶ変わっているのではないかなと思って、アンケートのタイトルを見て、えってそれだけでも思う方も多いのかなと思っておりました。

【木脇委員長】

なるほど、何か楽しいサブタイトルをつけるとか看板の架け替えもあり得るかもしれないですね。校長先生、いかがですか。

【田中委員】

前回欠席していました校長会の田中と申します。今日はよろしくお願ひします。お二人の意見感想とちょっと似ているのですけども、事務局に質問なのですが、先ほども出ていました 18.4%という回収率。-3.5%ということでお話ありましたが、その原因と伺いますか、どうしてこのような結果になったのかという押さえはあるのでしょうか。教えて頂きたいのですが。

【事務局（木本主査）】

まず、昨年度が 203 件の 20.3%で、その前の年は 21.5%ぐらいだったので、年々下がってきてる感じなのです。そしてとうとう一気に 19%も乗り越して 18%までいってしまったかという。このアンケートを出す前に、第 1 回の推進委員会で揉んで頂いて、挿絵を入れてもう少しとつきやすくした方がいいのではとか、字を大きくしたり、読みやすいように、目に入りやすいようにと形でいろいろ工夫したにも関わらず、全く効果がなかったというか、いやこの程度で少なく抑えられたと言っていいのかわかりかねるのですけれども、WEB 回答はだいたい 40 件ぐらいで過去 3 年ぐらいは推移しているので、同じぐらいなのですけれども、もう郵便で返すのがどうも皆さんには手間なのかなという感じは最近特にしてしています。私は年賀状書いているのですけれども、年賀状をやめたり、ポストに行く習慣、手紙を自分の手で書く習慣というのがもうスマホ世代の人たちにはなくなってきて、高齢者の方々ももうほとんどスマホとかそういったものを持っているような時代で、年齢層が若い人は書くのに慣れていない、逆に年代が上がってくるとこの細かい文字を見るのが嫌みみたいな感じになって、両方とも活字離れみたいな感じが出てきているのかなという感じはしております。

【田中委員】

わかりました。どうしてそういうことを聞いたかと言うと、伊藤委員さんもお話したと思いますけれども、この人数で例えば昨年度との比較や、傾向が見られるのかどうかと思ったのです。例えば一番わかりやすい 9 ページ見て一番数字的にわかりやすいなと思ったのですが、9 ページの上のグラフで 20~29 歳が「理解している」と答えたのは 100%となっています。この 100%はどういう意味かと紐解くと、人数を見ると 20~29 歳が回答したのが 12 人ですよね。千人のうちの 12 人が「全員理解している」と答えた

ということになります。これ 100%だけ、もし先走りしちゃったらどうなのだろうかというように見方もできるかなと思ってしまいます。ですから男女だとか年齢だとかで分けてこうやって統計取ってみるのはいいのだけれど、このアンケート結果が石狩市民のニーズとぴったり合っているかどうか疑問かなというようなことがあったので、こういうご質問をしました。

しかしながら、先ほども出ていたように記述意見の内容を見ると多く意見がありましたし、中身も肯定的な見方あるいは中間的な見方など色々な見方が参考意見としてあったので、こちらは大きかったと思いますし、今後参考にできる意見もあったのではないかなというふうに見ておりました。

記述が多いということは、やはり興味関心がある人が進んで回答したけれども、逆に興味関心がない人が多いという現状が浮き彫りになったということも言えるのではないのでしょうか。アンケートをもらっても書こうとしない、書こうとした人は意見を出してくれているというふうに捉えることができるのかなと見ました。以上です。

#### 【木脇委員長】

ありがとうございます。いろいろ唸るところがありました。関心がある方が封を切ってくださいって、1つ2つ3つと手間を重ねてポストまで出しに行ってくださいって、その中には男女共同参画という言葉だけ見て、さようならという人もいるのかもしれないということで、いろいろな工夫が考えられるのかなと思うのですが、これはいつから始まっていつまで続けるとかそういうことは決まっているのですか。

#### 【事務局（木本主査）】

この男女共同参画計画というのが、5年間の計画になっております。ですのでこの5年間は、計画の中でどういった傾向があるのかをつかむために同じアンケートを5年間とり続けるということになります。LGBTについては、今回の計画、令和3年度から5カ年間の計画になっているのですが、この時から初めて追加させて頂いた項目になっておまして、表現も推進委員会の中で揉んで頂いて、例えば「かいしょうなし」という言葉を前回の計画ではアンケート調査の中で使っていたのですが、「かいしょうなし」という言葉が若い人には分からないのではないかというお話がありまして、「役立たず」などというかたちで、より若い方にも分かりやすいような表現に替えさせて頂いたり、これは令和7年度までの計画ですので、令和8年度以降については、また新たにどういう施策を重要な政策を打っていくのかもこの推進委員会で検討して頂くかたちになると思いますし、そういった部分でアンケートの項目内容は次の計画に変わる時にまた見直す必要があるというふうに見えております。

#### 【事務局（富木課長）】

項目もそうなのですが、まずやはり封を開けてもらわなければ回答にまでは当然至らないので、まずはその辺からの工夫が必要かなということは、この結果を見てですね。おそらく20代の人たちは封を見て市役所から何か来た郵便だ。でも広聴・市民生活課と



差出人が書いてあったら、もしかしたら何だかわからないから封も開いてない方が結構いらっしやるのではないかなと思います。何とか封を開けてもらえるような見出しではないですけど、何かそういうのも考えていかなければならないかなと思います。

【木脇委員長】

トンチンカンなことを言うかもしれませんが、大学では高校生に何か郵送するときに、オープンキャンパスに来てくれたらこれをサービスしますという特典、例えばお茶の券とかを入れたりするのですけれど、何かそういう、そんなことが思うようなことが、結構人を呼んだりするのです。だから開けるときには役に立つのかもしれないと思っていて。でも行政はそんなことをしてはだめですかね。

【事務局（富木課長）】

物にもよるかなと思うのですけど。何か惹きつける何かがないとだめかなと思います。

【木脇委員長】

田中委員、お願いいたします。

【田中委員】

参考になるか分かりませんが、封を開けてもらうようなきっかけ、もちろんそれも大事だと思うのですけども、封を送る先も考えてみたらいいかなと思ったのですね。回収率を上げるために。アンケート結果を伸ばすだけであれば、例えば市内にある事業所だとか企業だとか公益団体だとかにご依頼をして、全部回答するかしないかはまかせますけれどもある事業所に何人分、「良かったら回答して頂けませんか。」みたいな。例えばの話ですけど。あるいは大学はちょっと難しいか…。色々なところから来ていていいと思うのですが。アンケートの回収率を上げるためには…。今回はきっとこれ無作為でやっているのですよね。

【事務局（富木課長）】

そうです。

【田中委員】

だから、無作為は無作為で良いのだけでも、市内にある事業所だとか家庭を踏まえて、色々な手法を使いながら渡して、回収率を上げることがよいのかと。そのためだけの目的ではないから何とも言えないのですけれども、そんな方法もあるかと思いました。

【事務局（富木課長）】

回収率が上がらないと、記述の意見も色々本当は思っている方がいるのかもしれないけれど、そういうのが分からないので、とにかく回収率をもう少し上げて、様々な意見をもらえた方が良いのかなと思います。

【木脇委員長】

獅子内さん、いかがですか。

【獅子内委員】

確かに僕も実際に、自分のところにアンケートが来て、まず、なんだ?となると思うのは間違いないと思うので、その工夫は絶対必要なだろうと。ただ、付加価値を何かつけるというのは、市役所というところがあるので、なかなか難しい面もあるのかなというのは率直に思っているところと、アンケートの内容でいうと、11 ページの暴力だと思いませんかのところ、平手で打つとか、殴るふりをして脅すという男性の部分で、3 割ないし 4 割ぐらい、平手で打つというのは約 3 割が暴力に当たる場合もそうでない場合もある、暴力にあたると思わないというのが 3 割程度いて、自分ではびっくりした。平手で打つなどは、最たるものという自分の感覚があったので、殴るふりをして脅すというのも、やられている側からしてみれば、ものすごい恐怖を味わうと思うので、そこが男女間で結構差がある。自分は男性としてというか、率直にそこは驚いた部分でした。それと、前にアンケートを送る際に添付する男女共同参画というのはどういうことみたいなところで、イラストとかを付けるという話があったと思う。それは、文字を短くされたりとかしたということによろしいですか。

【事務局（木本主査）】

はい。そうです。

【獅子内委員】

自分が感じたことは以上です。

【木脇委員長】

やはり自分事としてそういう封筒がきた時にどうするか。私も前に申し上げたのですが、時間を取られることは嫌だなと思ってしまう傾向が強くて、開けてちょっとしばらく置いておいたら、もう締切になっちゃったということが正直言っているかなと思います。何があったらやる気になるでしょうね。時間かな。他の委員さんはいかがでしょう。荒川さん、いかがですか。

【荒川委員】

男女共同参画という言葉にしても、DV にしても、モラハラという言葉にしても、私は、カウンセラークラブ石狩地区に入って 20 年近くなりますが、初期の頃は、市民の方たちは、それは何という感じ。今は電話を受けると、これって DV でしょうか、これはモラハラでしょうかねとか相談者の方から言われるので、多分こういう言葉というのは少しずつでも浸透しているのではないかなというのはあるのです。男女共同参画の意識に関しても少しずつであっても石狩市民の方達には受け取られてきているのだろうと思うのですけれど、具体的に私事としてとなると、まだ希薄な感じがします。正直な感想とし

で。少し外れるかもしれませんが、皆さんの意見を見させて頂いて、よくこんなに皆さん本音を書きにくさったなというのがあるのです。これを見ると、石狩市民の方たちは底力あるのではないかなと思ったりして、私は感じています。最初の頃、男女共同参画は、茫洋として掴みどころがなかったのですけれど、少しずつこういうことかなと私自身も分かってきたところがあります。後はワーク・ライフ・バランスと言われても、では理想的なワーク・ライフ・バランスって何なのでしょうかと。一市民としての思いも、読みながら何だろうと今ちょっと疑問に思ったところなのですね。皆さん色々なものを抱えながら、読ませて頂くと、模索して人生を送られているのだらうと思えますけれど、こういうものを突きつけられると市民として、私のワーク・ライフ・バランスって何だろうと実際に思います。考えるのはいい時間なのかもしれないのですけど。深くて分からないというのが正直な感想ですね。また、田中さんの意見などを聞かせて頂くと、鋭い分析をしておられるなと言う感想を抱きました。以上です。

【木脇委員長】

ありがとうございます。それでは、一通り回しますか。椿委員はどうでしょうか。

【椿委員】

今、皆さんのご意見をきいてプラスαはあった訳ではないのですが、2つの側面があると思うのです。1つは先ほどから言われている回収率の部分はどうやって上げるかという側面。これはなかなか難しいというか、出す方はあの1件でも多く返信してもらう方向で考えているのですが、受ける側はどう答えるかというのはその人の受けた人の自由であるのです。ただWEBでも答えるいうところを出来るだけ簡単にできる時代になってから、このWEBを使って回収率を上げる方法を工夫すると少しは前向きに数字が上がっていくのではないかなというふうなことを考えています。もう1つは、記述意見にびっくりしたのですが、これだけ18.5%の回収率に対してたくさん書いて頂けるとこれはすごいことだと思うのですが、これをどういうふうにもっとよく要約して反映していくのかなという。書いた人は、書きっぱなしではなくて何か期待していることがあるから書いて頂いてるというふうにも思うのですが、本当に意見がたくさん出て、書いて頂いていると思うのですが、本当にいい意見がたくさん出て、それをどう反映するのか、せつかく書いて頂いたのだからぜひ反映しないともったいないなという気がします。

【木脇委員長】

ありがとうございます。どのように還元して行くかということ。ただ取りっぱなしでパーセンテージ上がったとかだけではなくて、市民の生活にどのように還元しているかということでのご指摘。大事な点ではないかと思えます。鷺見さん、お願いします。

【鷺見委員】

途中からアンケートの取り方をどこまで変えられる余地があるのか分からないのですが、

若い世代とか、40代位まで、WEB アンケートの方が回収率は上がるなと思っていて、私は札幌市在住なのですけれど、札幌の LINE でアンケートに答えてください、札幌市のこれからを考えるためにアンケートにお答えくださいみたいなものがあって、結構10分位かかるものだったのですけれど、ちょっと時間があつたら WEB だったらやろうかなとやったのですけれど、やはり紙だと書いてポストに入れるというのは、ハードルが高いので、年代ごとに WEB にする年代とご高齢の方には郵送で送るみたいな分けたりできるのであればその方が良いのかなと。あとはアンケートの結果で、私は50代で、50代の方は結構低いところがあって、ああ、そうなのだと。低くなっているところもやはり母数が少ないのでこれ以上の分析ができない、数字だけになってしまうので、次回の時に回収率を上げて、もう少し有意差とかを見られるようにしたりとか、何かもう少し細かい分析ができたほうが、色々役に立つデータになるのではないかなということと、この結果は石狩市民の人に何かお伝えする機会はあるのでしたかと思って、あつたらいいなと思いました。以上です。

【木協委員長】

ありがとうございます。札幌市からはどのような形で送られてきたのですか。Google フォームとかですか。

【鷺見委員】

札幌市の LINE に、石狩市でも LINE をやっていますけれど、今日は天気が悪いので気をつけてくださいとか日々の連絡が来るところにアンケートにご協力お願いしますという感じでそのままそこから入って行ける。

【木協委員長】

10分かかったというのは長かった印象ですか。

【鷺見委員】

長かったですね。でもここまでやったから最後まで頑張ろうと。

【木協委員長】

それを狙っているのでしょうか。

【事務局（富木課長）】

設問数が多いということですかね。

【鷺見委員】

そうですね。結構ありました。

【木協委員長】

色々なご意見が出ましたけれども、また来年度、形式を変える時に、これがまた役に立っていただければいいかなと思います。私も自由記述が多いのにはびっくりしました。あと、統計的には300無いと統計学的に有意と言えないので、184は結構厳しいなというのが感想です。ありがとうございました。色々なご意見が出たと思うのですが、事務局から何かお答えというか、追加がありましたらお願いします。

【事務局（富木課長）】

やり方を工夫しながら、色々なアンケート、市でも他にもアンケート調査をやっているのので、そのなかでも回収率が良いものがあれば、そういう手法なども考えながら少しでも回収率が上がるようにやっていきたいなと思います。

【木協委員長】

後は還元方法も。

【事務局（富木課長）】

そうですね。

【木協委員長】

ロールモデルの時などにも少しかういものもいれて、発表するとかもあるかなと思いました。それでは報告事項これで一段落します。

#### <協議事項>

##### 1 男女共同参画の視点からの避難所運営の取組について

【木協委員長】

次に協議事項に入ります。

男女共同参画の視点からの避難所運営の取組について。事務局から説明をお願いします。

【事務局（木本主査）】

それでは、男女共同参画の視点からの避難所運営の取組についてご説明させていただきます。事前に送付させて頂いた資料は、【資料 2 男女共同参画の視点からの避難所運営の取組について（案）】になります。こちらは、今年の第 1 回の推進委員会でも検討頂いた内容と同じものとなっております。そして本日追加資料がございます。卓上に置かせて頂きました、【資料 2 【修正案】と書かれたタイトルが同じ男女共同参画の視点からの避難所運営の取組について（案）】になります。こちらは、事前配布させて頂いた、資料 3 の女性や子育てのニーズを踏まえた災害対応についてと、にじいろ防災ガイドに基づいて、昨年皆さんに議論して頂いた内容はどうだったのだろうと、再度事務局でチェックをし直しまして、この視点が抜けているのではないかとということで、若干の修正を入れさせ

て頂きました。修正部分については、4 ページ、5 ページ、9 ページに赤字で追記したところの修正がございます。

なぜ今回この修正案を出させて頂いたかと言うと、前回の推進委員会では、当初郵送でお送りさせて頂いたもので概ね良いとのご意見を頂いておりました。ただ、皆さんご存知の通り、今年 1 月 1 日に能登半島地震が起きまして、石狩市と江戸時代からの北前船での交易が縁で、平成 24 年度に友好都市協定を結んでいる輪島市も今回大きな被害を受け、石狩市としても市として 1000 万円の義援金を送ることを決定したほか、市内 10 か所に募金箱を設置して、私どもの市役所 1 階の広聴・市民生活課の窓口も募金箱を設置させて頂いてから、マスコミ各社に取り上げて頂きまして、本当に多くの市民の方からたくさんの善意が寄せられたことですか、今回本当にお正月、真冬に起こった災害ということで、皆さまも改めてこの災害が起きたことによってお感じになったことがあるのではないかとということで、再度ご提案させて頂きました。

それに加えて、前回の推進委員会で、木脇委員長から公募委員でいらっしゃいます、本委員会の委員で防災マスターの相澤委員にもぜひご意見を伺いたいというお話も頂いておりました。本日も残念ながら相澤委員は欠席ではございますが、欠席のご連絡を頂いた際に、私が相澤委員からお聞かせ頂いた、この冊子についての思いですとか、相澤委員が危機対策課に聞き取り頂いた内容なども合わせて今日の推進委員会でお伝えさせて頂きたいと思い議題とさせて頂きました。

相澤委員からは、指定避難所については、1 人 10 個程度の生理用品しかなく、なかなか目に見えないような、他の人に見えないような形で、袋に入れて配ること自体は市ではやっていないし、恐らくできないだろうというお話を危機対策課からお聞きしたとのことでした。

また、大人用の紙おむつや子ども用もあるのですが、やはり備蓄しているのはごくわずかで、あとは発災後の支援物資が頼りになっているということですか、女性用品については女性が配るようになっているけれども、例えば夜など、1 人の若い女性が避難してきたり、赤ちゃんやお母さんなどが被害に遭わないように、男性と女性と 2 人一組で係を決めて対応するといったことは想定されていて、授乳室も設置したほうが良いと書かせて頂きましたが、これについては、市の方で少し小さ目のテントがあるので、それで恐らく確保できるのではないだろうかということと、そこは着替えなどに使うことができるだろうとのお話でした。テントと言うと、ご家庭でキャンプなどに行かれる方は、テントをお持ちの方が多と思うのですが、発災直後は、指定避難所へのテントの持ち込みは NG になっているそうです。落ち着いてからとなると良いのですが、最初は段ボールなどで区切るようになっており、テントを持ってきても持ち込みをお断りするという事になっているというお話でした。

また、お家でペットを飼われている方も多いと思います。ご家族同様の飼い方をされている方も多いと思いますが、残念ながらペットについても、指定避難所においてはアレルギーがある方もいらっしゃる事から、避難所へ連れてくることは NG となっているというお話でした。

また、T 字剃刀は備蓄品には入っていないとのこと。あとは、必要な場合はお家から各

自持ってくるか、物資が来たら配るとのことでした。例えば男性など、ひげなどを剃る場合に、石けんを使う場合が多いと思いますが、残念ながら石けんも置いていないとのこと。固形石鹸も紙石けんもないとのこと、これについては相澤委員もびっくりされておられました。手指消毒用のアルコールなどはあるようにお聞きしています。

また、危機対策課のほかに市役所 4 階に防災まちづくり協会があるのですけれど、カンパンとか防災備蓄品などを販売していたりするのですが、そちらにもお聞きして頂いたところ、まだジェンダーの問題についてまでは入りきれていないのが現状とのことでした。

相澤委員に、この冊子についてどう思われますかとお聞きしたところ、現在の内容で概ね良いのではないかとのごことで、推進委員会では議論をしなくてはならない多くのことがあるので、防災のことばかり、避難所運営のことばかりを話題にするよりは、それだけでは時間が無くなってしまうと思うので、ご自身は出席できないが、今回で議論を終了しても良いのではないかとのお話を頂きました。相澤委員からのお話は以上です。

それでは、本日お配りしました修正版の変更点、追加になった部分などをご説明させていただきます。まず、4 ページを開いてください。4 ページは 2 具体的な対策例として (1) 避難所の開設について書かれております。この「ポイント」の 2 つ目に赤字で書いてございます、「●乳幼児が安全に遊べる空間と乳幼児がいる家庭用エリアの設定」これにつきましては、資料 3 で事前に配布させて頂いております文書の下の方に同じような文言が書いてございます。こちらを参考に、この視点が抜けていたのではないかとということで、資料 3 を一枚めくって頂き一番下の (4) 乳幼児への対応 乳幼児が安全に遊べる空間の確保と乳幼児がいる家庭用エリアの設定というのが、まだ東北地方太平洋沖地震ということで、発災直後に内閣府男女共同参画局から出された文書を参考に、女性や子育て家庭に配慮した避難所運営が大切ですよということで記載があったので、この部分を追加させて頂きました。それと合わせて、◆の一番下のところに「◆乳幼児が夜泣きしたり走り回ったりすれば、親にも大きなストレス。専用エリアがあることで、悩みを話し合えて助け合える。」という文言を追加しております。新たに 9 ページにチェックシートということで、一覧表になっていますが、乳幼児のいる家庭用エリアの設定、赤字になっていないのですが、①避難所の開設の上から 5 番目に乳幼児のいる家庭用エリアの設定と記載させて頂いております。

続いて、5 ページの (2) 避難所の運営管理が書かれてございまして、ポイントの一番下、●の途中に、赤字で記載させて頂いております。当初は、「避難者の中には、DV やストーカーなどの被害者が含まれている可能性もあることから、避難者名簿に個人情報の開示・非開示について本人確認を行う欄を設け、個人情報の管理を徹底する。」と書いていたところを、DV やストーカーなどの被害者や、の後から赤字で「性的マイノリティの方などで本名以外の通称を使われている方が含まれている可能性もあることから、避難者名簿に、避難所での呼び名、性別欄に『その他』欄、個人情報の開示・非開示について本人確認を行う欄を設け、個人情報の管理を徹底する。また、共用の名簿だけでなく、個別記入用の名簿と記入スペースも設ける。」とするとさせて頂きました。当初は DV ですとか、ストーカーなどの被害者などについては、名前で呼ばれることで、あ、あの人

がいるというふうに加害者にわがってしまうという恐れもあることから、記載して頂いたところだったのですけれど、今回性的マイノリティの方で、例えば、戸籍の性は男性だけれど、普段は女性として暮らしている方が、例えば男性名で呼ばれたりした場合、え、あの女性に見えるのにと周りから偏見の目を向けられたりや、通称ではこのような名前を使っているのに、〇〇さんじゃなかった？といったことがあっても困るので、ご本人が実際に避難所に来られるか分からないですし、普段どのようなお名前を使っているかは分からないところではあるのですが、見た目は女性でも、実は男性としての本名を書かなくてはならないと強要された場合に、連続で名前を書いたりすると、他の方にあれ？と思われることもあるのではないかとということで、例えば、この名簿ではなく、別の名簿に書かせてほしいのですがというふうに他の方に名前が見えないように配慮することができないだろうかという観点で追加させて頂きました。これは、DV 被害者のみならず、性的マイノリティの方への個人情報への配慮ということで、◆にも入れさせて頂きました。

最後に 9 ページではチェックシートということで、こういうことが配慮されていますかと確認するようなチェックシートになっております。

これは、平成 23 年に出された内閣府男女共同参画局から出ているものを参考にしており、例えば、おむつ替えスペースなのですが、乳幼児だけでなく、ご自宅で日常的に大人の方がおむつを使っていることはあると思います。実際に市では、おむつを使っている方にごみ袋をお渡ししたり、おむつの費用を補助したりするサービスもございますので、日常的に歩いたりなどは問題なくても、目に見えない部分でそういったものをお使いの方も子どもだけではなく、大人も使える、先ほどの授乳室のような、プライバシーが確保できるものがあつたほうがいいのではないかとということで、今回追加させて頂いております。

先ほどの、平成 23 年に出された内閣府男女共同参画局の【1】 避難所で提供する物資に含めるもので、(5) 離乳食があります。③物資の供給ということで、乳児に対する粉ミルクとかは、備蓄品としてあるのだけれど、残念ながら離乳食とかは残念ながら今のところ、石狩市では準備がないということだったので、これは、できるできないに関わらず、こういった視点も普段の災害のない時から視点として入れてもらいたいという思いもあつて作っているものですので、今回改めて入れさせて頂きました。それに加えて、介護用品、例えば、高齢のある方ですととろみのある介護食ですとか、入れ歯を使っている方の義歯洗浄剤、尿取りパッド、おしりふきなど。例えば、おしりふきなどは、今回の能登半島地震でも、長い期間お風呂に入れないということがあつたので、デリケートな部分におしりふきを使ったり、普段、使う使わないに関わらず、そういった部分を清潔に保つという意味でも、乳幼児だけではなく、大人も必要ではないかとということで、改めて追加させて頂いたところ です。

④衛生・保健については、生理用品・おむつなど用の中身の見えない消臭ごみ袋・ごみ箱の設置を追加させて頂きました。

これらにつきましては、今日初めてこの場で、皆さんにご覧になって頂いたもので、判断しかねる部分があるとは思いますが、東日本大震災ですとか、にじいろ防災ガイドは、



岩手レインボー・ネットワークが東日本大震災からのジェンダー平等などをめざす基金を使って、だれもが災害に遭っても尊厳をもって生き延びられるようにというものを改めて、もう一度目を通させて頂き、ここの視点が抜けているのではないかという部分を追加させて頂いたところです。皆さんも、資料をご覧になって、この視点が抜けているということはお気づきになった方も多くいらっしゃると思ったのですが、案があったほうが、分かりやすいかなというかたちで、今回お示しさせて頂いたところです。

1月1日の能登半島地震が起きて、改めてこういった視点を見直すことで、より、今同じ日本のなかで、被災をされている方がいる中だからこそ気づくこともあるのではないかということで、今回、避難所運営の取組についてのご提案をさせて頂いたところです。私からは以上です。

【木脇委員長】

ありがとうございます。非常にこの石狩市としての話題としては一段落しようとしたとたんに、やはり地震があること、災害はいつあるかわからないことを忘れてはいけないのだというような警鐘が鳴らされたような気がします。前もうかがったと思うのですが、どのように石狩市の施策に反映していく予定だったのでしょうか。

【事務局（木本主査）】

こちらの取り組みについてなのですけれども、この後市長を筆頭に市役所の全部長職で構成されている男女共同参画行政推進会議というのがございまして、年に1回ですねこちらの会議の方に報告という形をとらせて頂いております。2月末ないし3月中、今年度中には報告をさせて頂き、この案で行きましょうということになりましたら、危機対策課の方にも男女共同参画推進委員会でまとめたものをお渡ししてぜひ避難所運営の際には役に立てて頂いたり、例えば今後の運営マニュアルなどを改訂する際に参考にして頂ければと思いますということでお渡ししたいというふうに考えております。

【木脇委員長】

だいぶ長いこと揉んできたわけですがけれども、皆さんから改めて何か追加すること、ご意見などはありますでしょうか。

非常にきめ細やかな乳幼児の専用エリアなど、生きるか死ぬかという時にこれらができるかというのはまた別の問題で、できる時にこの優先順位をつけてやっていってくださいと、こういう視点が必要ですよということがよく書かれているのではないかなと思います。テントを持ち込めないことなどは知りませんでした。

【事務局（木本主査）】

相澤委員からお電話を頂いて私も初めて知りました。多分冬がある北海道ですとか雪が降るような地方では難しいと思うのですが、確か熊本の際は、グラウンドに皆さんテントを持ち込んでいるような、屋根のある所にはきっと持ち込めないのでしょうか、テントを持ってきた人は外で自分のテントの中で避難されている方も多くいらっしゃる

たのではないかなと、今になって熊本の地震とかを思い返してみれば、グラウンドにテントがいっぱい並んでいる風景があったなというふうに相澤委員のお話を聞いてから思い出した部分があります。

【木協委員長】

プライバシーのない体育館の中で、少しでも着替えとかプライバシーのある空間があったらいいのかなと思うのですが、そのダメな理由っていうのは例えば、火事とか。

【事務局（木本主査）】

多分、設置が各々持ってきてしまうと、この家庭だけ 7 人用のテントとかという話には多分ならなくて。

【事務局（富木課長）】

恐らく避難所の面積でここに何人収容できますというようなものが決まっているので、各々がテントを持って来られると、多分予定している収容人数が多分入りきらないということもあると思うのですね。それで段ボールで仕切るというふうになっているから、おそらくテントを持って来られるとあふれてしまうということがあるのかなと思うのです。

【木協委員長】

緊急避難だから仕方がないですね。

【事務局（富木課長）】

一部テントもあるので、それは地域の中で避難所に全員来た時に入りきらないというエリアについてはテントを用意して外に設置できるようなものも用意している場所もあるので、すよね。

ただ、1月30日のヤフーのニュースに出ていたのですけれど、今回の能登半島の地震で発災から1ヶ月が経ってもまだ避難所で暮らしている方がたくさんいるのですけれど、トイレが足りないですとか、トイレのドアが壊れている、汚れがひどいといった問題が指摘されていたりとか、生理用品を自由に持っていけるように並べてあるけれど、非常に持って行きにくいですとか、女性に何か困ったことはないかと聞いたときは、仕切りがないから着替えができない。着替えしているところとか授乳しているところをジロジロ見られて不快だったとかですね。あと盗撮の被害が出ていたりとかで、着替えをするために半分壊れた家に戻って着替えをしにくるから二次被害の心配があるというような話ですね。実際に覗きや盗撮、不同意わいせつ罪で19歳の男性が逮捕されているということも出ていましたし。あとは結局そういったものは、このガイドラインに全部網羅されているものではあるのですけれど、東日本の震災ですとか、熊本の震災の後、おそらく全国の自治体でここまで立派なガイドラインを作っているところもあれば、もう少し簡易なものもあるかもしれないのですけれど、実際にガイドライン通りにいつまで経っ

てもなかなかその通りの避難所の運営ができないということが書いてあるので、実際に避難所を運営するのも我々職員の場合もありますし、もしくは地域の方に運営してもらうこともあるので、こういったものをいかに我々役所の人間だけではなくて、地域の皆さんに避難所、災害が起きないのが一番いいのですが、そういったことが起きた場合にはこういうマニュアル的なものがあるって、避難所運営する時に、さっき言った直ちにはとはいかないと思うのですが、日を追ってこういうことに配慮して避難所運営をしてもらうっていうことを認識してもらうのが大事なかなと思いますね。

#### 【木脇委員長】

話が違うのですけれど、うちの学生が東日本の後にボランティアに行った時に、仮設住宅に、学生たちは困っているお年寄りを手助けしたいみたいな気持ちで行くのですよね。そうしたら、襲われちゃったということがありました。お爺さんに、何かストレスの溜まったときに、そういうレイプに近いような事故が結構ある。事件があるみたいですね。できるだけそのようなことを誘発しないように、みんなで気をつけなくてはならないと思った次第です。やはり、我が事として、皆さんで今一度考えなくてはならないですね。例えば、学校が避難所になると校長先生が陣頭指揮になるのですか。

#### 【田中委員】

実は、胆振東部の時に千歳にいたのですが、避難所運営をやってきました。私、教頭時代だったのですけれど、そういう仕組みがその当時はなかったです。学校に備蓄品も何もない。その後ですね配備されたのは、あの時の地震は朝2時とか3時ですよ。5時になったらもう学校の体育館の前に人が何人か来ていました。「ここ避難所でいいのですよね。入れさせてくれますか。」夜が明けるか、明けられないくらいから数名が来ていました。私、教頭と校長で地震後にすぐに学校へ行って壊れたものとかがないか、一段落して外に出たらもう何人か来ていました。その時は市役所の方も誰もいない。「では、入ってください。」から始まりました。あの時は千歳で3日間でした。学校の水飲み場の水は吸い上げるもので電気が止まったので出なかったのですが、たまたま玄関前にある外の水道は別系統だったので水が出ました。一箇所だけ水の出るトイレもあったので…。あの時は皆さん経験してないこと経験しましたね。ブラックアウトですか、あの時代だったらみんな協力して発電機とかはすぐ市で持ってきてくれたり、あるいは市の担当者が毎日、半日ぐらいずつで変わって来てくれたりするのだけれど、担当の方は男性も女性も来ました。

男女共同参画の視点で言えば、やはり何人か「授乳したいのですが保健室を貸してくれませんか。」とか、あるいは「おむつを取り替えたいのですが、」とか。着替えのことはあまり出なかったかな。近所に家があってすぐ行って帰ってきたりするのだけれど、団地が多いところだったので。団地が揺れたら困るから避難所に来ますという人が多かったのです。何が言いたいかということ非常にこれは（今回の資料は）良くできているものだなと思います。素晴らしい。しっかりしていて、女性への配慮と言いますか、男女参画の視点からということで、いいものができたなと思います。

話題は変わるのですが、1ページのはじめにのところに書いてある真ん中から下のあたりの「これらの取組を進めることは、子どもや若者、高齢の方、障害のある方、外国人、性的マイノリティの方など、多様な方々への配慮にも資するものと考えています。」のところがその通り、素晴らしいと思うのですね。ということを考えてときに、私のイメージですが、この冊子はきっとその下に書いてある本市においても「石狩市指定避難所運営マニュアル」という大元があって、これに重なってくるのかなというふうに思っていました。まずそれでいいのかどうかってことを教えて頂きたいと思うのです。

そうであれば、男女共同参画の視点から考えるのであれば、ちょっと書きすぎなところもあるのではないかと思いました。つまりさっき読んだところの、子どもや若者、高齢の方、障害のある方、外国人、性的マイノリティの方に対してもマニュアルみたいのものが重なってくるのかなと思ったりしたのです。

でも、あくまでもこれは男女共同参画の視点だから例えば、9ページの先ほど説明した介護用品とかはどうなのだろうと感じました。男女共同参画の視点から離れてお年寄りという立場なのかと思っていました。あと分からなかったのは性的マイノリティを男女共同参画の視点から捉えるかどうかが難しいのかなとも感じています。要するに「人権」というくくりで別項目になってきたりするのかと思ったりもしたのです。入れてダメではないですよ。しかし、仮にもしその他の分野でもこういう冊子が補足で重なっていくのであれば、そういうところの整備はそういうところ、そして男女共同参画の視点からの整備はそっちの整備の仕方みたいな形で重なっていけば望ましいのではないかなというふうに思っています。

#### 【木協委員長】

ありがとうございます。今のご意見に対していかがですか。はいお願いします。

#### 【事務局（泉主任）】

そうですね、おっしゃる通りというふうに思うのですけれども、我々の方も配慮が必要な人に対するマニュアルが、うちは男女共同参画なのですけれども、他分野でどの程度あの避難所に関して整備されているかは把握しきれてないところもありまして。男女共同参画をあえて広めに捉えて今回は入れさせて頂いた部分がありまして、結局女性や子どもへの配慮という部分なのですけれども、大人の方、介護を必要としている方に関してもやはりプライバシーですとか、男性の方もいれば女性の方もいるし、その他の性の方もいらっしゃるということを考えると、少し広めに捉えて全体的にどういった配慮を必要とするかということで入れさせて頂いた部分があります。

ただ、例えば高齢者ですとか障害のある方ですとか、そういった方々の専門の部署もありますので、そちらの方で、もしこういった避難所に関する部分でこういう配慮が必要だとかこういったものが必要だという提言があればそちらに委ねる方がよろしいかなとは考えております。

【田中委員】

はい、ありがとうございます。逆に言うと、先ほどお話し頂いた年に1回2月に市長さんと部長さんがたくさん集まって話が出るときに「我々この男女共同参画推進委員会からはこのように声を出しますよ。ほかのところはどうなっていますか。みんなで積み重ねていきませんか。」みたいな話ができ、避難所マニュアルみたいのができあがるとしたら望ましいのではないかなというふうに思います。

【木脇委員長】

現場経験者からのお話でした。

【伊藤委員】

今、田中委員がおっしゃっていたことに、同じような感覚がありまして。実は私、今回の地震のニュースを見たときに、1歳ちょっとの歩き初めて歩くことがもう楽しくなっているぐらいの幼児を、お母さんが空間を見つけてとにかく歩かせているのですよ。避難所とはいえこういう光景はあるのだなと思ったのと、私が仕事で、児童館で子どもの遊ぶ現場に行った時に、子どもは遊ぶことがやはり成長には必要だというのを実感していますので、長期間の避難所の中でも子どもが遊ぶという空間の必要性を石狩市で考える内容で、マニュアルという形なのか分からないのですが、何かそういう捉え方をしたものを作ってもらえないだろうかという個人的な思いがありまして、そうしたところ、今日来て4ページを見た時に、赤丸で乳幼児が安全に遊べる空間という言葉がつけ足されているのを見たときに、すごいわっ！と思ったのですよ。私もちょうど、遊べる空間というのを避難所に設置するというものを最初から入れてほしいなと思っていて、ただ文字にしたときに、遊べるというのが、そういう状況の中で子どもが遊ぶのかと思われることも多いので、最初から事前に何も無い時から遊ぶことは、不謹慎なことではない。子どもにとっては、という場所の確保は、今子どもの人権のこともやっていますので、石狩市としては子どもの権利として、どんな時でも遊びの場所を作る石狩市ですよというものを何かにつけてほしいなという思いを持っていて、今日来た時に、男女でこの言葉を入れてくださったのだったという思いもありまして。

田中委員がおっしゃったように、こちらからも子どもについての意見はこういうふうに考えますよということ、子どもの担当のほうでも、子どもについてはこういうふうに考えてということと合致しますねということで、子どもについて、せっかく石狩市で作っている最中なので、うまくそれが連携できて、日頃から、何も無い時から、子どもの遊びを大切にしている市なのだというベースが固まれば、私が仕事としてやっているものも、どんな時でも必要なものだ証明されるのかなと思ったものですから、とてもこの4ページのこの言葉をしっかり見せて頂いて、私は嬉しいと思っています。

【木脇委員長】

ありがとうございます。私から一言。伊藤委員のおっしゃることはよくわかります。中越地震の後に私、聞き取りに行ったのですね。避難所で子ども達に対して何がストレス

かという、何のプログラムもなければ、遊ぶところもなければ、静かになさいと言われることがすごくストレス。それで退職の保育園長さんたちがチームを作って移動保育所というのをやって、避難所を歩いた。それがすごく良かったという。その後、移動子育て支援とか色々やられるようになったのですが、子どもにとって日常であることが何なのかということ世の中が知っていればそれができるわけですよ。女子どもではないですけど子どもの事も考えて、視点を持ちたいと思います  
みなさんいかがでしょうか。はい、どうぞ。

**【鷺見委員】**

あくまで男女共同参画の委員会の視点ということにするのか、もう少し広く使いやすいものにするのかというのはあれなのですが、ここに介護のことが書いてあるのであれば、ぜひ障害児のスペースも必要とか、そういうものも入れるのであれば、そこも書いて欲しいなと思いました。

他の障がいの人とか、ボランティアの人が、こういうマニュアルを考えているのかちょっとわからないのですが、何か最終的に使い勝手が良いように、これがいっぱいあっても本当に緊急事態の時にこれを全部見てではなくて、全部網羅されていてわかりやすく短くまとまっているような簡易版みたいなものとか、そういうまずは短いものを見て整えるといった使い勝手の良いものを最終的に市役所の中でまとめてもらえると、いざという時に役に立つのではないかと思います。

**【木脇委員長】**

だんだん要求が広がっていているのですけれども。

**【荒川委員】**

質問よろしいでしょうか。これは誰がどこでやるのだろうというのがあって。私たちは、男女共同参画という枠の中で意見を出していますよね。石狩市は、石狩市で防災の何かそういうものがありますよね。万が一の時にはこうしましょうという、そういう方がいますよね。そういう人たちと私たちの意見というのは、どこかですり合わせではないですけど、しなくてもいいのかなと今ふっとね。本当に生かすにはどうしたら。

**【事務局（富木課長）】**

男女共同参画からの視点については、今皆さんに協議して頂いてこういった形になりました。一般の避難所の運営については、危機対策課の方でいろんな地域の話なども聞きながら避難所の運営マニュアルを作成してるいのですよね。おそらくまあ今回これでこの委員会ではこういった形で提言しますということ、先ほど木本から言った危機対策課にもお伝えをして、その避難所運営、今ある一般の避難所運営マニュアルの内容を先生言ったとおりこうするのか、それとも中にこう盛り込んでいくのかというようなことになろうかなと思いますね。そこで1つの避難所の運営マニュアルですか、これも含めたマニュアルが完成して。先ほど僕言いましたけど、それをいかに地域の皆さんに、

我々職員だけじゃなくていかに地域の皆さんに知って頂くということが大事なのかなって思っています。

【荒川委員】

いざとなった時はもうごちゃごちゃですよ。テレビ見たらそうですね。

【木脇委員長】

普段やってないとやってないことはできないですからね。

【荒川委員】

どうやって収めていくのだろうかというのは、一市民としてね。

【事務局（富木課長）】

先ほど、ネットのニュースの記事を読みましたけれど、おそらくあれが現実というか。結局いろいろな震災を経験してきて、そういったマニュアルもあるのだけれど、いざそこで災害が起きるとなかなかその通りにできていないというのが現実なので。まあいつまでもそういうわけにもいかないと心の中では思うのですが、もう何年も経っていますので。実際今回の能登でも起きて、そういう今も変わらない現実があるということなので、何とかせねばという気持ちではいるんですけど。

【荒川委員】

いざとなったときに、これがあってよかったねっていうような動きになってほしい。

【事務局（富木課長）】

そうですね。まあすぐにかっちりこの通りにという風にはならないと思うんですけど、まあ避難所も時間が経てばちょっと落ち着いてきたりとかがあると思うので。

【荒川委員】

準備しないよりはいいですよ。こうして話し合っておくのはね。

【事務局（富木課長）】

そうですね、はい。段階的にでも少しずつでもそういう風になっていけばいいのかなと思うのですよね。

【荒川委員】

何も起きないことを祈るけれども。

【木脇委員長】

そうなのですけれども。防災マスターの方たちとか、色々な研修会をしてとか、そうい

うのでこれも使って頂いて、いざというときあなたはどうするみたいな感じで、教頭先生時代のお話みたいなのを聞かせて頂いたり、そういうことが普段からできるとだいぶ違うと思います。意識も上がります。

【田中委員】

関連するかどうか分からないですけど、先日広報に、花川南中校区の防災のことが書いてあったと思います。いわゆるコミュニティスクールだと思うのですが、その一環の中で、避難訓練とか防災教育だとかを生徒、学生、児童と地域の方々と共に行ってみる、というのを拝見しました。多分そういう取り組みがどんどん今後進んでくるのではないかなというふうに思われます。けども、具体的にキャパの問題もあるし、時間の問題もあるし、何がどれだけできるかわからないのですけれども、学校がだいたい避難所になっていることが多いので、コミュニティスクールを通しながら、双方から、つまり学校主体でやってもやりにくいかもしれないから学校がある地域とともに市の防災の担当者が来てというような形で、お互いにレクチャーしあうような環境が整っていくといいかなと感じます。

【木脇委員長】

地域づくりだと思うのです。しかもそのもう地震が起きてからではなくて、起きる前の日常生活の中にそういうものがあれば一番いいなと思います。何も無いことを祈ります。ご意見、ご質問よろしいでしょうか。

◇その他

【木脇委員長】

それではちょうどいいお時間ですので、事務局からの事務連絡などをお願いいたします。

【事務局（木本主査）】

では、修正案のほうは、皆さんこれでよろしいでしょうか。大丈夫そうですかね。では、これで一応確定ということで、今日出席されていない委員もいらっしゃるので、議事録と一緒にこちらをお送りさせて頂いて、赤字の部分が増えましたが、これでいいですか追加で聞いたほうが丁寧ですね。修正などあれば修正をして。

【木脇委員長】

暫定の最終版ということですね。

【事務局（木本主査）】

そういうかたちで進めさせていただきます。ありがとうございます。それでは私の方から、その他ということで、今後のスケジュールについてご説明させていただきます。議事録につきましては、事務局で作成し、でき次第送付いたしますので、内容、ご自身のご発言ですとか、他の方が話している表現が変などのご確認をお願いいたします。も



し修正などがありましたら、何ページのどこどこという形で、事務局までお電話でもメールでもファックスでも構いませんので、お知らせください。

また、多くの委員にメールでの日程調整などにご協力頂いておりますが、郵送事情が非常に悪くて郵送でももちろんお送りするのですけれども、メールで見た方が分かりやすいという方もいらっしゃると思うので、メールアドレスをお持ちの方はメールもあわせてお送りさせて頂いて、後ほど遅れて文書が届くという形になると思いますけれども。そういった部分で紙とデータで見ながら、メールアドレスある方はチェックして頂ければと思います。

今年度の推進委員会は、以上で終了となります。来年度の第1回の推進委員会は、7月下旬ないし8月上旬頃を予定しております。近くなりましたら日程のご案内などをさせて頂きしますので、皆さまご出席のほどよろしく願いいたします。私の方からは以上です。

◇閉会

【木脇委員長】

ありがとうございます。以上をもちまして、令和5年度第2回男女共同参画推進委員会を終了いたします。どうもありがとうございました。

令和6年2月27日議事録確定

石狩市男女共同参画推進委員会

委員長 木脇 奈智子